

R2 鈴鹿サーキット (三重県)

エントリー台数 69台
観客動員数(土・日合計) 16,000人

4/23(土) 曇り 公式予選 レース1 14位(タイム:2'08"706) レース2 15位(タイム:2'09"204)

4/23(土) 曇り 決勝レース レース1(14周) 11位

4/24(日) 雨 決勝レース レース2(14周) DNF

合計獲得ポイント **5P**
ポイントランキング **19位**

■ **1年ぶりの実戦。得るところが多かった鈴鹿2&4**

ここ2シーズンはコロナ禍で思うようにレース活動ができないでいた生形だが、2022年シーズンは鈴鹿8耐で結果を残す事を目指し、粛々と準備を進めてきた。その一環で4/23、24に開催された全日本ロードレース選手権第2戦鈴鹿2&4レースにスポット参戦した。ちょうど1年前このレースを走り、この時は鈴鹿8耐に向けたトライアウトを突破し参戦権を取得。実戦はそれ以来となったが、レースに出ない間の時間を様々なトレーニングや身体のケアに費やし、フィジカル面では過去最高の状態と言っても過言ではないほど仕上がっていた。

今回はスポット参戦ということもありフル参戦している上位チームとは異なるタイヤを使用。もてぎと鈴鹿でテストをこなし、それに合わせたセットアップを進めた。木曜日の走行は3本あったが、2本目から雨が降り出しウェットとなっていく。日曜日の天気が悪くなることも予想し、ウェットでもしっかり走行を重ねる。金曜日は晴れとなったが、1本目は前日の雨の影響で路面が乾かず、最後に確認程度に走ったのみ。2本目はドライで走れたが、妥協すべきところは妥協しなければならず難しい部分もあった。

土曜日の公式予選は思うようにクリアラップが取ることができず、タイムを出すのに苦戦。鈴鹿2&4レースは生形のように鈴鹿8耐を見据えて参戦するライダーが多く、そのレベル差も大きい。クリアラップはほとんど取れないのが現実だった。その中で何とか2分08秒台までタイムを縮め、レース1は14番手グリッドから追い上げを誓う。

<決勝レース1>スタートを決め、オープニングラップを11番手で戻ってくる。5目目に1台にかわされるが、レース終盤に2台抜き、さらに前を追っていく。5台による9位争いの集団となっていて、最後に抜いて9位でゴールしようと思っていた。しかし、ラストラップに逆に抜かれてしまい11位でゴール。順位は満足いくものではなかったがペースは悪くなく、先につながるレースとなった。

<決勝レース2>日曜日は一転雨模様。予定周回数は2周減算され、14周で争われた。朝のウォームアップ走行では木曜の延長線上でセットを進め、レース2にむけてマシンもまとまってきた。フルグリッドの44台が一斉にスタートすると、水しぶきがすごく後方は視界が遮られてしまう。生形は13番手を走っていたが、6目目のデグナーカーブ立ち上がりで僅かにラインを外したところ、ハイサイドを食らい転倒。レース2は結果を残せなかったが、幸いケガもなかった。チームとしても生形自身としても、得るところの多い鈴鹿2&4レースとなった。

<生形秀之コメント>

「今回は限られた条件の中で結果を出そうとトライしました。最終的にはいいレベルまで持って行けたと思います。1年振りの実戦で、不安要素はありましたがオフの間にやってきたことの成果を実感できました。レース1ではポジティブなことを、レース2は改めてレースの難しさを感じました。チームとしても前進している部分、反省しなければならない部分も再確認できましたし価値のある1戦でした。これも応援してくださっている皆さんのおかげです。鈴鹿8耐に向けて前進していきます」



鈴鹿8時間耐久ロードレース選手権 決勝レースは8/7(日)です

PARTNERS

